

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>入居者の皆様が、地域の人々とのかかわりを大切にしながら安心して暮らしていけるよう、地域交流と入居者様の尊厳を大切にされた質の高いサービスの提供を目指して、理念の見直しを行った。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者と職員は、ホーム独自の理念を確認する機会を折に触れて持ち、具体的にどのように入居者様にかかわっていくかということを話し合っている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族には、訪問時や家族会等においてホームの理念や取り組みについて伝えている。 地域住民の皆様には、運営推進会議やホーム便りを活用して当ホームの取り組みを伝えている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所の人々と、挨拶や会話を通して顔なじみの関係を築いているところであるが、ホーム側からの一方的な働きかけにとどまり、気軽に立ち寄ってもらえる関係には至っていない。</p>	<p>○ 近隣の人々への挨拶や声かけ・行き来のきっかけづくりを積極的に行い、近隣の人々に気楽に立ち寄ってもらえるグループホームを目指していきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>近隣施設の文化祭や地域のお祭りには、入居者様とともに積極的に参加し地元の人々との交流を深めている。 自治会や町会・町内の活動への協力が不十分である。</p>	<p>○ グループホームと地域の人々が共に支えあうことができる関係の構築を目指し、地域の子どもたちの遊び場としての役割・町内の活動への協力等に取り組んでいきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の中学生の体験学習や看護学生のボランティア実習を受け入れてグループホームの活動を体験してもらうことができた。 当ホームでの入居者支援における知識や実践経験を、地域の高齢者ケアに還元していく取り組みは不十分である。	○	グループホームにおいて、入居者様への支援を行うなかで得られた知識や経験を、地域住民の皆様の暮らしに役立てることができないか話し合い、実践していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員はサービス評価の意義とねらいについて話し合い、理解している。 評価結果はミーティング等で報告し、改善につなげるよう努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族や地域住民の方・近隣施設や行政の職員の方々に参加してもらい、当ホームの取り組みを報告して話し合い、意見をもらっている。 サービス評価と運営推進会議の結びつける取り組みが不十分である。	○	運営推進会議において、自己評価の内容説明や評価結果の報告を行い、この会議をサービス評価への取り組みや改善経過のモニター役として活用していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市担当窓口を折に触れて訪問し、当事業所の実情や取り組みを伝えている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	これまで成年後見を必要とするケースがなく、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業についての職員の理解が乏しい。	○	勉強会を行い、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業についての理解を深め、必要となった入居者様に適切な支援ができるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営者・管理者から職員に向けて、高齢者虐待防止関連法に関する説明が行われているものの、全職員の十分な理解が得られているとは言い難い。	○	勉強会を行い、高齢者虐待防止関連法の十分な理解と遵守に向けた取り組みを行ってほしい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項の説明のほか、事業所としての取り組みや対応可能範囲について、ご本人・ご家族に丁寧に説明し同意を得ている。 契約解除においても、ご本人やご家族とよく話し合い納得していただいたうえで決定している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様への日常のかかわりのなかで、言葉や態度から意向を探り、その「思い」に添ったサービスの提供ができるように努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族ごとに、電話等希望される方法で入居者様の健康状態や暮らしぶりを報告している。 ホームでお預かりしている金銭については、出納記録をつけてご家族に示している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や家族面談において、ご家族から要望や意見を聞き、サービスの向上に活かしている。 意見箱を設置したり、外部の相談窓口を紹介して、ご家族の声が出されやすいようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者・管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションをとり、また、ミーティング等で職員の意見や要望を聞いて運営に活かしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様のその人らしい暮らしを支援できるよう、人手の必要な時間帯に職員配置を厚くしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	原則として、ユニットごとに担当の職員を固定しており、入居者様とのなじみの関係をつくっている。職員交代の際は入居者様やご家族に十分に説明し、ダメージを少なくしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	近隣のグループホームとの交流を通じて、サービスの質の向上を目指していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、入居者様やご家族の話をよく聞き、その時点で必要と思われる対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人やご家族の事前の見学や体験入居にて、当ホームの雰囲気慣れてもらい、安心感を持って入居してもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者様から教わることを大切にしており、お互いに助け合い支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子や職員の思いをご家族に伝え、ご家族と一緒にになってご本人を支援していく関係をつくるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人・ご家族双方の思いを受け止め、これまでのご本人・ご家族の関係を踏まえつつ、さらにより良い関係が築けるように働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居者様がこれまでに築いてこられた人間関係を断ち切らないよう、手紙や電話の利用支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士の関係性を把握し、お互いに助け合って暮らしていけるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用契約が終了しても、必要時には職員が会いに行ったりして、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との日々のかかわりのなかで、思いや希望・意向の把握に努めている。 思いを表出しにくい入居者様については、日々の言動や表情から汲み取り、把握するように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様ご本人のバックグラウンドに関する情報を、プライバシーに配慮しながら収集し、日常のケアに役立てている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様一人ひとりの生活リズムを理解し、日常の言動から、ご本人の全体像を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族からよく話を聞き、職員で話し合っ入居者様が自分らしく暮らせるような介護計画の作成に留意している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、長期計画(6ヶ月)・短期計画(3ヶ月)を立てており、入居者様の状態の変化があったときには、状況に合うよう柔軟に計画変更を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分の摂取量、排泄の状態、生活状態、身体状態等を記録している。 職員がいつでもその内容を確認できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険サービス以外の自主的なサービスに特筆すべきものはないが、入居者様の日常生活の支援において、できる限り柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者様が安心して生活できるよう、民生委員や警察・消防への働きかけを行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ、介護保険以外のサービスとの連携は行えていない。	○	入居者様の状況や希望に応じて、介護保険外の生活支援に結びつくサービスの利用支援を検討したい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの具体的な協働は行えていない。	○	ご本人・ご家族の意向や必要性に応じて、地域包括支援センターとの協働を検討していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医を受診できるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に、認知症の人の医療に詳しく熱心な医師がおり、助言や指示をもらっている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者様の普段の状態や持病を把握している看護師が協力医療機関にあり、気軽に相談できる関係ができています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し速やかな退院支援につなげている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期における対応指針を定めており、当ホームが提供し得る最大のケアについてご本人・ご家族に説明し方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の入居者様が安心・安全に暮らせるよう、協力医療機関との連携体制を整えている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者様が別の居所に移り住む場合、細かく情報提供を行い、少しでもリロケーションダメージを少なくできるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングの際に入居者様へのかかわり方を話し合い、入居者様の誇りやプライバシーを損ねないような対応をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様の思いや希望を引き出せるように努め、自分で決める場面を積極的につくっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様それぞれの生活リズムや希望を大切に、職員側の都合や決まりに合わせてもらうことが少なくなるようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日の服装は入居者様に選んでもらうようにしており、身だしなみもできる限りご自身で整えてもらい、職員がさりげなくフォローしている。 なじみの理美容院の利用を支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の力量に応じて、食事の準備や盛り付け・配膳等を手伝ってもらい、職員と入居者様が一緒に食事をして、楽しい雰囲気大切にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者様が自宅にいる時と同じように、嗜好品を楽しめるよう配慮している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者様お一人おひとりの排泄のサインを全職員が把握して、さりげなくトイレに誘導し、トイレでの排泄を支援している。 おむつや尿とりパットを使用している入居者様でも、トイレでの排泄機会を増やすように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者様の希望により、毎日入浴することも可能であるが、日中の入浴に限られ、夜間の入浴には対応できていない。 異性の職員が入浴介助を行う場合には、入居者様の羞恥心に配慮している。	○	入居者様の意向に添った入浴支援ができるよう、入浴時間帯の拡大に向けて努力していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できるだけ日中の活動を促し、夜間によく眠ることができるようにしている。 入居者様の心身の状態に気を配り、適切な休息がとれるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者様お一人おひとりが何らかの役割を持って、日々の暮らしが張り合いと喜びのあるものになるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として、金銭はホームにて預かっているが、入居者様の力や希望に応じて少額を持ってもらったり、買い物の際にご自分で支払えるようにお金を手渡したりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者様の気分や要望に応じて、散歩や買い物など戸外へ出ることを支援している。 歩行困難な入居者様には、車いすを利用している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常生活のなかで、職員がさりげなく入居者様の要望を聞きだし、ご家族の協力を得ながら個別の外出支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の利用がいつでも可能であることを折りに触れて入居者様に伝え、ご家族や大切な人との交流を支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族やご本人のなじみの方々の来訪を歓迎し、ゆったりと気兼ねなく過ごせるような配慮をしている。希望により、ご家族の宿泊が可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は、身体拘束によって入居者様が受ける身体的・精神的弊害を理解し、拘束のないケアを実施している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員は、日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しているが、人員の少ない時間帯には鍵をかけて対応することがある。	○	鍵をかけない暮らしの大切さについて、今一度、職員で話し合い、日中は鍵をかけないで支援していく努力をする意識や姿勢を徹底していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は1時間に1回、夜間は3時間に1回、入居者様のプライバシーに配慮しながら所在や様子を把握し、記録している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険防止を優先するあまり、入居者様の自然な暮らしに悪影響を与えないよう、入居者様の状態に応じたかたちで危険物の管理を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者様一人ひとりの、予測される危険を把握・検討して事故を未然に防ぐようにしている。 インシデント・アクシデントの報告・記録し、事故防止策を具体的に検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者様の急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応について、ホーム長(看護師)の指導のもとに全職員が学習し、折りに触れて小訓練を実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を実施しており、近隣住民の方に協力を依頼している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	安全面への配慮が行き過ぎて入居者様の暮らしを抑圧しないよう、ご家族と相談しながら、その人にとって好ましいケア方法を考え実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	持病を抱え、定期的に通院している入居者様が多いため、定時のバイタルチェックを実施している。 血圧・体温等のデータに頼りすぎず、入居者様の顔色や様子から体調変化の兆候を察知するようにし、ホーム長(看護師)や協力医療機関の担当看護師に報告している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の個人カルテに、使用している薬剤の目的や副作用・用法・用量等の資料をファイルしており、全職員がいつでも確認できるようにしている。 服薬がきちんとできているかの確認を徹底して行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便を促す薬剤の使用は最後の手段と考え、まずは散歩や家事等で身体を動かす機会を増やしたり、水分摂取量を増やす工夫・乳製品や繊維質の多い食材をとり入れるなどして、自然排便を促すようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、入居者様の状態に応じて、うがい・義歯洗浄・歯磨き等の支援と口腔内のチェックを行い、チェック表に記録している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェック表に記録し把握している。入居者様の摂取カロリーや栄養バランスについて、併設施設の管理栄養士のチェックを受け、助言をもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各種感染症の知識とその予防や対策等について収載した「感染症マニュアル」を備え、全職員がその内容を周知して実行している。全職員と可能な入居者様に、インフルエンザ等の予防接種を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や台所等の衛生管理・食品の管理について職員間で取り決めをして、実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに草花を飾り、威圧感や違和感がないようにして入居者様・ご家族や訪問される方が入りやすいようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、常にホーム内の明るさや音に気を配って調節している。食事やおやつ・ホーム内の装飾・物品に季節を感じられるものをとりいれて入居者様が居心地良く過ごせるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳の間等、入居者様が思い思いに過ごせる場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者様が使い慣れた家具・生活用品・装飾品や思い入れのある物品等を持ち込んでもらい、居心地良く暮らしてもらえるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員は常にホーム内の臭気や室温に気を配り、入居者様が快適と感じる環境を意識しながら換気等を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の転倒等の事故につながる要因はないか、生活空間の状態を常に確認し、入居者様の自立した暮らしを妨げないかたちで環境を整えている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者様それぞれに異なる「わかる力」に合わせて、援助の方法や内容を個別に工夫し援助している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置いて入居者様が屋外の雰囲気を楽しめるようにしている。 入居者様が外に出て、洗濯物を干したり植物の手入れや水やりができるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

* 隣接の協力医療機関（成田病院）と連携し、入居者様の事故・急変等の緊急時においても、24時間365日迅速に医療対応ができる体制を整えています。

* 日々の暮らしのなかに昔ながらの風習をとり入れ、入居者様に昔のことを思い出してもらい、ゆったりと穏やかに生活していただけるよう努めています。